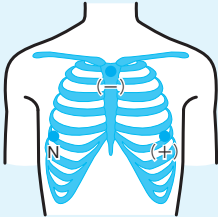
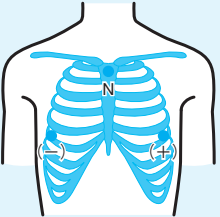
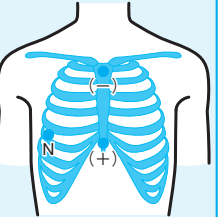
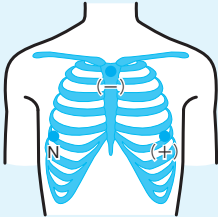
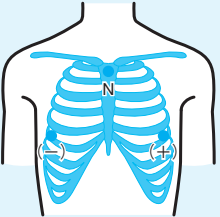
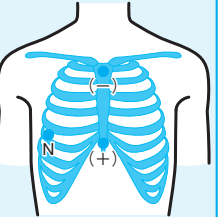
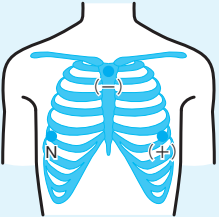
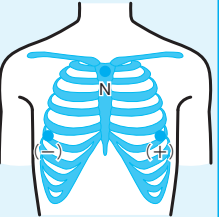
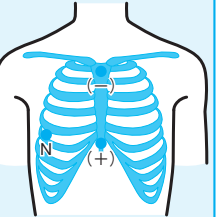
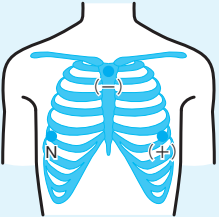
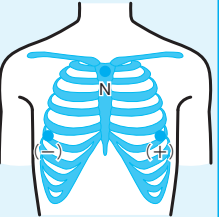
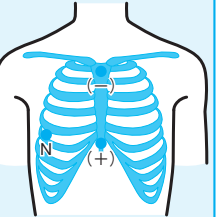
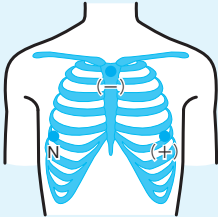
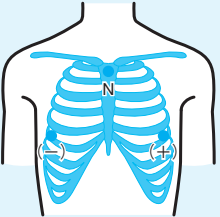
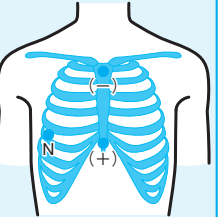
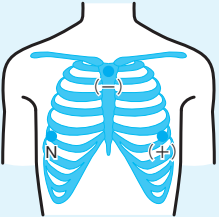
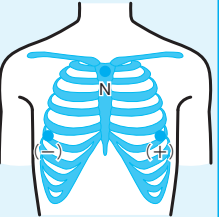
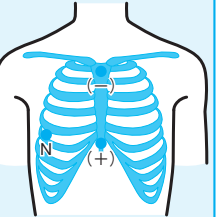


正 誤 表

『実力心電図―「読める」のその先へー』 および 『実力心電図―「読める」のその先へー 〈改訂版〉』 につきまして、下記の誤りがございました。謹んでお詫びし、訂正させていただきます。

※正誤表の更新につきましては、<http://new.jhrs.or.jp/book/book-seigohyo/> をご確認くださいますようお願い申し上げます。

頁	箇 所	誤	正																																																																
63	図 39 「誘導の方向」	<table><tr><th>誘導名</th><th>CM<sub>s</sub></th><th>CC<sub>s</sub></th><th>NASA</th></tr><tr><td>電極位置</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>陽極(+)</td><td>V<sub>s</sub></td><td>V<sub>s</sub></td><td>胸骨下端(剣状突起)</td></tr><tr><td>陰極(-)</td><td>胸骨上端</td><td>V<sub>s</sub>R</td><td>胸骨上端</td></tr><tr><td>類似誘導</td><td>V<sub>s</sub>または II</td><td>V<sub>s</sub></td><td>V<sub>1</sub>または aV<sub>F</sub></td></tr><tr><td>誘導の方向</td><td>X</td><td>X</td><td>Z</td></tr><tr><td>長所</td><td>①V<sub>s</sub>と近似で波形が大きい(V<sub>s</sub>の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好</td><td>①V<sub>s</sub>との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている</td><td>①V<sub>1</sub>に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない</td></tr><tr><td>短所</td><td>①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる</td><td>呼吸による基線変動が大きい</td><td>体位、個人差による波形変化が大きい</td></tr></table>	誘導名	CM <sub>s</sub>	CC <sub>s</sub>	NASA	電極位置				陽極(+)	V <sub>s</sub>	V <sub>s</sub>	胸骨下端(剣状突起)	陰極(-)	胸骨上端	V <sub>s</sub> R	胸骨上端	類似誘導	V <sub>s</sub> または II	V <sub>s</sub>	V <sub>1</sub> または aV <sub>F</sub>	誘導の方向	X	X	Z	長所	①V <sub>s</sub> と近似で波形が大きい(V <sub>s</sub> の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好	①V <sub>s</sub> との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている	①V <sub>1</sub> に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない	短所	①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる	呼吸による基線変動が大きい	体位、個人差による波形変化が大きい	<table><tr><th>誘導名</th><th>CM<sub>s</sub></th><th>CC<sub>s</sub></th><th>NASA</th></tr><tr><td>電極位置</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>陽極(+)</td><td>V<sub>s</sub></td><td>V<sub>s</sub></td><td>胸骨下端(剣状突起)</td></tr><tr><td>陰極(-)</td><td>胸骨上端</td><td>V<sub>s</sub>R</td><td>胸骨上端</td></tr><tr><td>類似誘導</td><td>V<sub>s</sub>または II</td><td>V<sub>s</sub></td><td>V<sub>1</sub>または aV<sub>F</sub></td></tr><tr><td>誘導の方向</td><td>X</td><td>X</td><td>Y</td></tr><tr><td>長所</td><td>①V<sub>s</sub>と近似で波形が大きい(V<sub>s</sub>の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好</td><td>①V<sub>s</sub>との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている</td><td>①V<sub>1</sub>に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない</td></tr><tr><td>短所</td><td>①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる</td><td>呼吸による基線変動が大きい</td><td>体位、個人差による波形変化が大きい</td></tr></table>	誘導名	CM <sub>s</sub>	CC <sub>s</sub>	NASA	電極位置				陽極(+)	V <sub>s</sub>	V <sub>s</sub>	胸骨下端(剣状突起)	陰極(-)	胸骨上端	V <sub>s</sub> R	胸骨上端	類似誘導	V <sub>s</sub> または II	V <sub>s</sub>	V <sub>1</sub> または aV <sub>F</sub>	誘導の方向	X	X	Y	長所	①V <sub>s</sub> と近似で波形が大きい(V <sub>s</sub> の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好	①V <sub>s</sub> との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている	①V <sub>1</sub> に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない	短所	①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる	呼吸による基線変動が大きい	体位、個人差による波形変化が大きい
誘導名	CM <sub>s</sub>	CC <sub>s</sub>	NASA																																																																
電極位置																																																																			
陽極(+)	V <sub>s</sub>	V <sub>s</sub>	胸骨下端(剣状突起)																																																																
陰極(-)	胸骨上端	V <sub>s</sub> R	胸骨上端																																																																
類似誘導	V <sub>s</sub> または II	V <sub>s</sub>	V <sub>1</sub> または aV <sub>F</sub>																																																																
誘導の方向	X	X	Z																																																																
長所	①V <sub>s</sub> と近似で波形が大きい(V <sub>s</sub> の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好	①V <sub>s</sub> との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている	①V <sub>1</sub> に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない																																																																
短所	①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる	呼吸による基線変動が大きい	体位、個人差による波形変化が大きい																																																																
誘導名	CM <sub>s</sub>	CC <sub>s</sub>	NASA																																																																
電極位置																																																																			
陽極(+)	V <sub>s</sub>	V <sub>s</sub>	胸骨下端(剣状突起)																																																																
陰極(-)	胸骨上端	V <sub>s</sub> R	胸骨上端																																																																
類似誘導	V <sub>s</sub> または II	V <sub>s</sub>	V <sub>1</sub> または aV <sub>F</sub>																																																																
誘導の方向	X	X	Y																																																																
長所	①V <sub>s</sub> と近似で波形が大きい(V <sub>s</sub> の1.5倍) ②虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている ③P波の認識が比較的良好	①V <sub>s</sub> との近似性に優れる ②体位の影響が少ない ③最も純粋にX軸方向の評価ができる ④虚血の診断(ST下降, 上昇)に優れている	①V <sub>1</sub> に近似でP波の認識が良好である ②不整脈の分析に優れている ③体動による基線動揺や筋電図の混入が少ない																																																																
短所	①偽性ST下降が見られやすい ②Y軸方向成分も含まれる	呼吸による基線変動が大きい	体位、個人差による波形変化が大きい																																																																

(2026 年 1 月 9 日 日本不整脈心電学会)